

# JIS

## 粗銅地金中の金及び銀の定量方法

JIS M 8114 : 1999

(2008 確認)

平成 11 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによってJIS M 8114 : 1950は改正され、この規格に置き換えられる。

---

主 務 大 臣：通商産業大臣      制定：昭和 25. 12. 1      改正：平成 11. 3. 20

官 報 公 示：平成 11. 3. 23

原案作成協力者：日本鋳業協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 神尾 彰彦）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料機械規格課（☎ 100-8921 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 粗銅地金中の金及び銀の定量方法 M 8114 : 1999

Method for determination of gold and silver in blister copper

1. **適用範囲** この規格は、粗銅地金中の金及び銀の定量方法について規定する。
2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。
  - JIS K 0050 化学分析方法通則
  - JIS K 0116 発光分光分析通則
  - JIS K 0121 原子吸光分析通則
  - JIS K 8001 試薬試験方法通則
  - JIS K 8090 酸化鉛(II)(試薬)
  - JIS K 8885 二酸化けい素(試薬)
  - JIS M 8102 粗銅地金—サンプリング方法及び水分測定方法
  - JIS Z 8401 数値の丸め方
  - JIS Z 8801 試験用ふるい
3. **一般事項** 定量方法に共通の一般事項は、JIS K 0050, JIS K 0116, JIS K 0121, JIS K 8001及びJIS Z 8801の規定による。
4. **定義** この規格で用いる主な用語の定義は、次による。
  - a) **調合** 試料のるつぼ融解において、30~40 gの鉛ボタンを生じ、かつ、試料主成分などをスラグとして分離するのに適する量の試料、酸化鉛(II)及び融剤をはかり合わせる操作。
  - b) **るつぼ融解** 融剤と混合した試料を粘土るつぼを用いて還元状態で融解し、金、銀、その他の貴金属元素を鉛ボタンに捕集する操作。
  - c) **灰吹** 鉛ボタンをキューペル(灰皿)に入れ、酸化状態で融解し、鉛及び鉛ボタンに付随した試料成分などをキューペルに吸収させ、金、銀、その他の貴金属元素を金銀ビード(金銀合金)として分離する操作。
  - d) **分金** 金銀ビードを硫酸又は硝酸中で加熱して、銀、その他の貴金属を浸出溶解させ金粒を分離する操作。
5. **分析試料の採り方及び取扱い方**
  - 5.1 **試料の採取及び調製** 試料の採取及び調製は、JIS M 8102の規定による。
  - 5.2 **試料の取扱い方** 試料の取扱い方は、次による。
    - a) 試料のはかり採りに際しては、試料をよくかき混ぜて平均組成を得られるように注意し、また、異物が混入していないことを確かめなければならない。
    - b) 試料のはかり採りには、通常化学はかりを用いる。